

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を重視し、子どもの願いや思いを大切にすることで、自ら学び続け、達成感を味わうことができるようにする。 いじめの未然防止や命の尊厳を守る取組により、自他を大切にすることを育み、自治力を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域に出かけたり、ゲストティーチャーの講話を聴いたりするなど、本物に触れる活動を行った。 「いじめを見逃さない日」に全校放送で課題提示をして、学級ごとで大切にしたいことやその価値を話し合った。 英語の学習では、ALTとやり取りをする言語活動を多く取り入れたプログラムを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 上級生が下級生と関わる活動が仕組みされていた。縦割りの活動で、年上の人から学ぶことや年下の人に教えることはとてもよいことである。 異学年での活動が微笑ましかった。これからも続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本物や実物を見て、感じて、行動を起こしていける子どもを育てていく。 異学年の活動を、年間を通して大切にしていける。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域、PTAとの連携を図り、検討したことやアイデアを生かして支援を行う。 幼保小中の連携を図り、実効性のある教育活動を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域学習の支援やゲストティーチャーの紹介など、学校と地域の連携を図ることができた。 幼保を小学校に招いて1年生と交流し、6年生は中学校を訪問して授業を行い、進級に伴う不安の軽減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人や企業がゲストティーチャーとして授業で講演したり、子どもが地域や企業に見学、訪問したりして学んでいる。 地域でも子どもたちが生き生きと行事に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、PTA、地域で連携して、子どもの追究したいという思いに応えていく。
あたたかさ働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間内で業務を遂行したり、仕事の仕方を工夫したりする。 互いのよさを認め合う風土を醸成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から共助のこころをもち、仲間と助け合ったり補い合ったりしながら活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは休み時間になると、自分の得意なこと好きなことを友達と一緒に楽しんで過ごしていた。明るい表情になっている。 学校を訪れる保護者に対し、子どもは自然に挨拶をしてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶などを通して、相手や自分を大切にすることを育てていく。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自発的、自治的集団活動を推進することで、認め支え合う関係を醸成する。 基本的な生活習慣を徹底することで、心身の健康を保持増進する自己管理能力を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童会のあいさつ活動や学級遊びのPDCAサイクルにより、目標達成に向けて、自治的、自発的な活動をした。 「ここタン」で子どもの気持ちの変化を読み取り、子どもの思いに大人が寄り添い、支援や見守りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に運動場にいる子が見守っている先生を見つけて走り寄って話しかけていた。先生と子どもがしっかりと繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動の中で、自分の気持ちを素直に表現できる人や場、方法など、取組をしっかりと整えていく。
災害、事故に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 各種訓練を計画的に位置付け、目的を明確にして行うことで、自分の命を自分で守る力を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 消防署員を招いた地震や火災発生時の訓練、警察署員を招いた不審者侵入時の対応訓練を実施し、自分の命を守る行動を確かめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内に危険と感じさせるものはなかった。校内の安全対策や整理整頓がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測不能な自然災害に対して、万が一の際に機能していくようにする。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末など、整備されたものを効果的に活用することで、教育活動の充実に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末は課題解決学習や学力定着のためのドリル学習として活用した。また、子どもたち同士の意見の交流や確認のツールとしても活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の本をデジタル媒体で借りて読むシステムが子どもに定着していた。紙の本を広げて読むこともでき、どちらの方法も大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルのよさ、アナログのよさのそれぞれを生かして整備を進めていく。